

平成 23 年 12 月 8 日

九州観光推進機構
海外誘致推進部

「九州オルレ」による韓国人旅行者の誘致について

九州観光推進機構では、これまでビジットジャパン事業等を通じ、韓国において一大ブームとなっているトレッキングをテーマにしたインバウンド誘致に取り組んできました。これまでに九重山や霧島連山等、日本百名山を中心とした九州の山々の魅力を紹介することにより、韓国における九州でのトレッキングの認知度は徐々に高まり、訪問者も増加傾向にありました。

2010年、九州へ入国した外国人旅行者数は初めて100万人を超え、韓国からの旅行者数は、過去最高の64.5万人を記録しましたが、本年は東日本大震災や円高などの影響により訪問者が激減しています。そのため、九州への興味を喚起する新たな取り組みとして、近年韓国のトレッキング愛好者の間で非常に人気のある「済州オルレ」に着目し、「そのブランド力」を活用して、九州各地の魅力的なハイキングコースを「九州オルレ」として韓国市場にアピールすることにしました。これらのコースに、宿泊施設や温泉はじめ九州らしい観光地を組み合わせた旅行商品を造成することにより、視野の広い韓国のトレッキング愛好者にとって、九州が付加価値の高い魅力ある旅行先であるというイメージの定着を目指してまいります。

「九州オルレ」ブランドの立ち上げにあたっては、2011年5月に済州オルレ関係者を九州に招請し、九州を代表するいくつかのトレッキングコースの視察を実施し、オルレコースの造成可能性を確認しました。その後、2011年8月23日に、済州島で社団法人済州オルレと九州観光推進機構で業務協定締結を行ない、「九州オルレ」立ち上げ及び運営に向けて、済州オルレのプロデュースやアドバイスの提供を受ける事に合意しました。



《九州観光推進機構と済州オルレとの業務締結の様子》

九州オルレのコース選定については、済州オルレスピリッツである、「アスファルトの道を避ける」、「気候に左右されない道をつくる(雨や風の中を歩くのも魅力)」、「地域密着と地域活性化」を尊重して進めています。現在は、九州各県より複数コースの提案を受け、コースの下見と地元との協議を行ない「九州オルレ」にふさわしいと考えられるコースを選定、再度「済州オルレ」スタッフが直接九州に出向き「九州オルレ」候補コース視察を行い、両者でコースの検討を行なっています。



《済州オルレスタッフによる、九州オルレコース視察の様子》

今後については、「済州オルレ」からの意見やアドバイスを参考にしながら、3月上旬に「九州オルレ」コース(第一弾)の発表を行うように準備をすすめております。

発表の際は、社団法人済州オルレの徐理事長をはじめ、韓国内の TV、新聞社、業界紙等のマスコミ関係者を九州へ招請し、新たな九州観光の魅力として「九州オルレ」誕生の情報を、韓国全土に発信し、韓国からの観光客増大に取り組んでまいります。

<オルレとは>

オルレとは濟州島の方言で「家に帰る細い道」という意味で、濟州島の魅力を広めるために濟州オルレが提案したウォーキング(ハイキング)コースを表します。韓国ではトレッキングの国民的な流行に乗って、大きなブームとなっており、すでに濟州オルレという名称は、韓国内ではブランドとして定着しています。

ちなみに、平成22年度の濟州島の訪問者数は約670万人で、そのうちオルレに参加した人は全体の約30%の約200万人(濟州オルレ発表)です。

濟州島観光は日本の南九州と同様に、一時期、新婚旅行で活況を呈していましたが、近年は低調となっていました。それが、「濟州オルレ」のブームで息を吹き返し、今や、韓国国内で大変人気のある観光地となっています。



《濟州オルレコース(イメージ)》

※九州観光推進機構は、九州7県と九州の経済界により、九州観光を一体となって振興するために、2005年4月に設立された組織。